

## 入 選

誰もが笑顔で水を使える世界へ

開智望中等教育学校

二年 関 口 さくら

水道の蛇口をひねるだけで、きれいで安全な水が出てきて私たちの喉を潤したり、私たちが手を洗うことで悪い菌などから守ってくれる。

日本では水についての問題を身近に感じることはあまりない。私たちは水があるおかげでこうして生きていける。人間だけでなく地球上のあらゆる生き物にとって欠かすことのできない命の源なのである。

私が水について考えるようになったのは、ある日 Aさんが「今、欲しい物は水です」と言っているのをテレビを通して聞いた。私は最初「水なんて簡単に手に入るでしょ」と思ったけれど、Aさんはアメリカで暮らしており、水がほとんど手に入らず、もし手に入ったとしても土やいろんな菌などが混ざ

った汚い水である。という事を聞いて、それから水の大切さについて考えるようになった。

Aさんと同じように苦しんでいる人は他にもいるのか、私は調べてみた。

調べた結果、世界でおよそ6億6300万人もの人たちが安全な水を手で取れずにいるらしい。毎日多くの子供達が池や川など飲用に適さない水源に頼るしかなく、ようやく水源に辿り着いてもその水は泥や細菌、動物のフンなどが混じった危険な水。それらを飲み命を落としている子供達が年間30万人、毎日800人以上にのぼっている。

私たちが住んでいる地球は、地表の3分の2が水で覆われていることから水の惑星と呼ばれている。これだけ水があるのに、私たちが使える水は0.01%しかないことを聞いて私は驚いた。そして、食糧や生活用品などの生産過程で使用される水を含めると、日本人は一日あたり300リットルを超える水を使用しているらしい。

このような事を聞いて私たちはこれからどのようなことを意識し、心がけて生活していけばいいのか

考えてみた。

一つ目は、水を無駄にしないこと。日頃から節水を意識しながら生活するという事だ。水道水を出しっぱなしにしない、雨水の利用を心がけたり、汚れを拭き取ってから洗うなど、これはほんの一部に過ぎない。心がけられることは他にも沢山ある。これらを毎日コツコツと積み重ねていくだけでも、水がないことで苦しんでいる人の力になる。

二つ目は、お金の寄付、募金。募金こそ水の豊かな国に住む最も手段で行うことのできる支援活動だと思う。寄付されたお金は、汚れた水を安全な飲料水にする浄化剤を購入したり、下痢による脱水症状から子供を救う経口補水塩を提供したりと、お金を寄付するだけでも、十分苦しんでいる人たちを救える。

私は今まで、地球上の水は無限にあるのだと思っていた。しかし、この作文を通して、水がなくて苦しみ、死に至っている人たちがいる。私はこれから無駄に水を使うのをやめようと思う。

そして世界中の人、みんなが安全できれいな水を

使える世の中になってほしい。

私はそう願ひ、今日も苦しんでいる人の力になりたい。